

【お話おばさんの西播磨昔話】

五右衛門風呂

五右衛門風呂いうのん知っとるか。昔、大盗賊、石川五右衛門が釜ゆでの刑になったという、ほんまに怖い話からついたそうな。

かまどの上に鉄釜を据えて木の桶を置き、下から火を焚いて、直接沸かす風呂のことを言うんや。底板が浮いって、お風呂に入るときには踏み沈めなあかんのや。ステンレスやポリの風呂桶なんかあらへんで。

昭和の中ごろまで田舎の家は、隣もその隣も、みんな五右衛門風呂やった。風呂焚きは、いつも子供の仕事でな、勉強なんかせえへん、家の仕事をよう手伝うのがえらい子やった。

まず第一に、風呂に水を入れる。水道みたいなもんはあらへん。井戸から水を汲み、バケツで何回も入れる。重労働やった。次に、風呂を焚く。ガスや電気や灯油もあらへん。麦わらや枝豆の木や藁を結んで焚いた。ちょっとええ時は柴を焚いた。もっとええ時は山からとってきた木を割り木にして焚いた。

子供だけで風呂に入ると、上手に底板が入らず、ぷかぷか浮いて困ったもんや。風呂に下駄をはいて入ったと、漫画のような話もほんまもんやった。やんちゃな町の子が遊びに来て、風呂に入りたいたいと言うと、田舎のおっちゃんに「おまえ、暴れた



五右衛門風呂

ら窯の底が抜けるんやぞ。そないなことになったらげんこつ一発や」目を剥いて脅され、怖い思いをしたというこっちゃ。

(注)

かまどの中の火がゆっくりと消えるまで、余熱が残っていたので湯冷めもしにくく、体がポカポカと暖かさが長く続いた。

【文責：浜田多代子】

社会貢献のひとつ

平成29年度地域日本語教室リーダー養成講座

近年、西播磨でも外国人に出会うこともめずらしくない。英語の指導助手、企業での研修生、播磨科学公園都市での研究者、留学生など来日の目的は多様。そのような外国人に日本語を教える教室が市や町にある。講師はボランティアの日本人。今、講師を支援する講座が開かれている。主催は公益財団法人兵庫県国際交流協会。7月～12月まで7回30時間の研修を30数人が受講している。日本語教室の講師は英語が話せないとか



リーダー養成講座（9月）

メですか、と聞く人がいる。英語力は無用。日本語はすべて日本語で教える。日本語教室に通う人の目的は多様。企業の中で毎日、重労働の仕事をしている人、食品関係の仕事では技能はプロ。しかし、日本語が全くわからない人。日本に住み家族がいて、英会話スクールを経営しているが今、日本語の基本を学びたい。学びへの想いは異なる。

奉仕活動へ時間がとれて、意欲のある方なら誰でも日本語教室の講師になれる。教室の生徒では中国、ベトナム、フィリピン、ミャンマー、スリランカ、ペルー、アメリカ、カナダなど。日本語を教えながら生徒から学ぶことも多い。

日本語教室の講師を支援者という。どこの教室も支援者が不



上郡町日本語教室の代表の話

足している。みなさん、自分の人生の時間の一部を外国人の日本での生活を支える社会貢献に使われませんか。人生での新たな発見があるかもしれません。

取材者もこの講座の受講生の一人。

問い合わせ先：(公財)兵庫県国際交流協会 多文化共生課
TEL：078-230-3261

【取材・文責：山本健一】